

正式名称	三陸復興国立公園
場所、 アクセス	岩手、宮城を中心に、幾つかの施設、名勝を巡った。 http://www.env.go.jp/park/sanriku/
三陸復興国立公園について	昭和30年(1955年)、陸中海岸国立公園として指定された地域を中心に、平成25年(2013年)、三陸復興国立公園と名称を変更し、発足した。 現在、青森、岩手、宮城の3県にまたがる、9市6町3村を擁している。 本国立公園は、東日本大震災からの復興に貢献するものでもある。 http://www.env.go.jp/park/sanriku/guide/view.html
施設、名勝紹介	<p>① 学ぶ防災・宮古市田老</p> <p>明治29年(1896年)の明治三陸地震、昭和8年(1933年)の昭和三陸地震による大津波により壊滅的被害を受けた。そのための津波防災対策として、当時の田老町(現宮古市田老地区)は、高さ10m、長さ2km近い巨大な津波防潮堤(通称「スーパー堤防」)を築いた。その後、昭和53年(1978年)にその外側に高さ10m、長さ約500mの「逆への字形」の第三防潮堤を完成させた。これらのハード対策に加え、至る所に設置された「津波への注意を喚起する看板、高台への避難道路」などのソフト対策も整備し、旧田老町は昭和三陸津波の70周年に当たる平成15年(2003年)3月3日に「津波防災の町宣言」を行っている。こうした歴史的な経緯の下、平成23年(2011年)3月11日の東日本大震災による大津波は、第三防潮堤に押し寄せた津波が押し戻され、第一・第二防潮堤へは、当初の津波の上に押し戻された津浪が重なり20m近くの高さまで倍化され、より巨大な津浪に変貌したことが、被害を更に拡大させたとのこと。数回にわたりスーパー堤防と呼ばれた巨大な防潮堤を越えて、町を襲い、甚大な被害をもたらした。港付近のJFたろう製氷貯水施設にはその当時襲った津波の高さが17.3mと記され、それ以前の津波の高さ(明治29年15m、昭和8年10m)を超える巨大な津波であったことがうかがえる。</p> <p>今回は、「防潮堤の上に立って自分の目で確かめる」ため、宮古観光協会学ぶ防災係の方にガイドをお願いし、破壊された堤防や建物等の状況並びに復興状況についての現地説明を受けた。それによると、第二・第三防潮堤は“高波避け”を主目的として建設され、コンクリート内部に鉄筋は入っていなかったとのこと。そのため、津波対策としては不十分であったとの説明がなされた。その後、震災遺構となった「たろう観光ホテル」6階から3月11日当時、地震発生40分後に撮影された映像のDVD鑑賞により、津波被災当時の状況説明を受けた(震災遺構となった「たろう観光ホテル」を保存するには、数億円の建物補修と維持費が必要とのこと)。その中で印象に残ったことは、次の2つである。</p> <p>その第一は、過去の津波への思い込み反省として、①正常化の優先；今まで被災</p>

しなかったので今回も大丈夫と過信すること、②集団同調バイアス；みんなが逃げないから大丈夫、③エキスパートエラー；専門家の意見に従った。

その第二は、防災対策であり、①スーパーのかご（ヘルメットの代替）、スニーカー（足元の安全対策）、③笛（被災場所の救援要請）、④ペンライト（停電時の灯り確保）は大いに役立つとのこと。

田老近くには津波により壊滅状態となったキャンプ場跡地に建設された中の浜メモリアルパークがあり、津波が21mの高さまで達したきづ跡が残されている。



[学ぶ防災宮古]への問い合わせ等

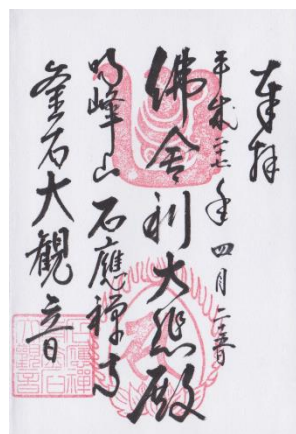
- ・ 受入人員 200人迄
- ・ 期 間 通年（年末年始休み）
- ・ 所要時間 40～60分（応相談）
- ・ 料 金 4,000円（ガイド1人派遣につき、1～40人対応）
- ・ 備 考 集合場所など応相談

<http://www.kankou385.jp/pickup/411.html>

② 釜石大観音（釜石）

昭和45年（1970年）、釜石市大平町の鎌崎半島に建立された。高さ48.5mの巨大な観音像である。湾を一望でき、震災当日、津波の様子が見えたとのこと。堤防

は一応効果があったようで半壊したが、修復中である。観音像は、ひびが入ったが、現在は修復されている。震災当時、2日間移動ができなかったとのこと。入場料、大人、500円



<http://www.kamaishi-daikannon.com/>

③ 三陸鉄道南リアス線

南リアス線は、大船渡市の盛（さかり）駅と釜石市の釜石駅間（36.6km）を結ぶ三陸鉄道の鉄道路線である。線路は太平洋に面する三陸海岸沿いを走っているが、山沿いにあるため、トンネルが多い。本線は平成23年（2011年）3月11日に発生した東日本大震災により、全線不通となっていたが、平成25年（2013年）4月3日に盛一吉浜間が運行を再開し、平成26年（2014年）4月5日に吉浜一釜石間の運行を再開し、今日に至っている。また、クウェートの支援により購入した車両には「クウェート国からの支援に感謝する」旨のメッセージが車両の先頭部分に「アラビア語、英語、日本語」の3カ国語で記載されている。

なお、沿線の小石浜駅は「恋し浜駅」に改称され、駅舎に置かれたホタテの貝殻には復興へのメッセージが記載され、その枚数は、約25,000枚にも達し、駅舎に収納しきれない状況との説明があった。





〔お役立ち情報〕

イオンタウン釜石駅の駅員さんのお話によると、列車の発車は、改札口から駅ホームに設置されている蛍光灯を駅員が「消灯」のスイッチを押し、明かりが消えた時点が「発車OK」の合図であり、発車間際に改札口を通られるお客さんには、「列車は発車しません。大丈夫です。」との説明を行っているとのこと

<http://www.sanrikutetsudou.com/>

④ 大船渡屋台村

平成23年(2011年)12月20日に誕生した大船渡の復興の象徴ともなっている場所である。飲食店を中心に特色ある42店舗があり、飲食店の広さは5坪(16.5㎡)、カウンター式の屋台が20軒、軒を連ねており、焼き鳥屋、沖縄料理屋、お好み焼き屋等、多種多様なメニューと個性ある店主が自慢とのこと。また、施設の中央にはお祭り広場があり、特設ステージを設け、様々なイベントやライブが行われている。津波に負けずに頑張っておられる大船渡の人たちと、全国各地から訪れた人たちとの“初対面での談笑”で思い出に残る場所でもある。

関連サイト ; <http://www.5502710.com/>

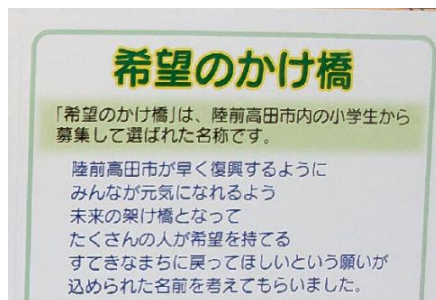
⑤ 奇跡の一本松(陸前高田)



奇跡の一本松と津波による廃墟



ベルトコンベアー(希望のかけ橋)



山から削り採られた土砂は、全長約3Kmのベルトコンベアーで今泉地区に造成中の高台の住宅地へ運ばれていく。このベルトコンベアーは、地元の小学生から名前を募集。復興への願いを込めて「希望のかけ橋」と名付けられた

道路を挟んで反対側には奇跡の一本松駐車場があり、観光物産施設「一本松茶屋」ができた。見晴台からは、奇跡の一本松はもちろん、旧市街地やベルトコンベアーを一望できる。なお、「希望のかけ橋」は、1時間当たり6,000 m³と言う驚異的な土砂運搬能力を持つ。

<http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/fukkou/ipponmatu/ipponmatu.html>

⑥ 大船渡津波伝承館（大船渡）

東日本大震災と津波の記憶を後世に伝えるべく、平成25年(2013年)3月11日、さいとう製菓中井工場七郷ホールに開設された。

予約して訪問すると、まず、さいとう製菓の事務所からの映像を中心に11分間の津波の映像が流された。撮影者(館長)の「津波が来るぞ!逃げろ!」という声が印象的であった。館長は、お父様からは、昭和8年(1933年)の昭和三陸地震の記憶を聞き、また、自らは、昭和35年(1960年)のチリ津波を体験している。海底が見えるほど潮が引いたそう。お母様からは、いつなにおきるか分からないからと言われ、いつも服を枕元に用意していたそう。また、北海道南西沖地震(平成5年(1993年)、奥尻島が津波に襲われた)の記憶も新しいとのこと。しかし、現在、津波の知識を得る機会がない、また、知識や体験を伝える人がいないそう。また、恐怖心を持っていることも重要と考えている。恐怖心があればこそ、迅速な避難ができ、日頃の心構え、訓練によって正しい判断ができる。岩手日報の平成24年(2012年)3月13日付のアンケート調査が紹介された。津波に巻き込まれた状況は、逃げなかった40%、避難中19.5%、自宅に戻った5.9%であり、適切な行動をすれば助かったまたは、津波に巻き込まれなかったと思われた。 <http://www.iwate-np.co.jp/311shinsai/y2012/m03/sh1203131.html> さいとう製菓には、「地震だ、津波だ、すぐ避難」のポスターが掲示されているが、掲示していることに気づかなかった社員がいたとのこと。よく目につくほど意識しなくなる。掲示しているだけでは効果がない。

館長の当時の経験が紹介された(順不同)。

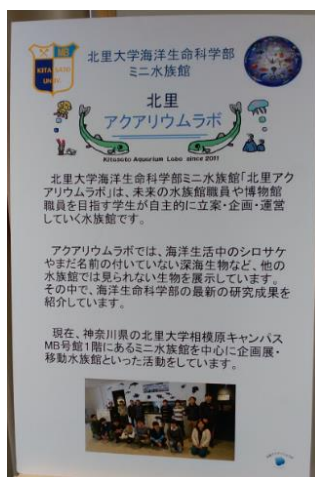
- ・車での避難は避けること。歩いた方が早いこともある
- ・必要と思われるもの：お薬手帳、保険証、免許証、現金。ただし、取りに帰る時間がないときは、すぐ逃げること
- ・風呂のボイラーは空だき防止装置があり、水道がでないと機能しない
- ・震災直後はモノがなく、現金が通用しない。地域コミュニティが大切
- ・危機的な時の方が皆が協力し、心豊かになれることもある
- ・なかなか電話やメールができなかったが、第一声は、「生きていらっしやっただすね」だった
- ・さいとう製菓は、「かもめの玉子」で知られている。鶏の餌は船で運ばれるが、

震災で埠頭が破壊され、陸揚げできなかったので、玉子の供給が困難だった

伝承館の内部及び幾つかの展示を紹介する。



北里大学は、大船渡市三陸町の三陸キャンパスに海洋生命科学部があったが、東日本大震災の影響で相模原キャンパスへ移転した。現在は、震災による生態系への影響を調査・研究し、復興への足がかりを模索している。



北里アクアリウムラボは、学生が自主的に立案・企画・運営する水族館
三陸の自然の豊かさを多くの人たちに知ってもらいたいと大船渡津波伝承館で展示を行っている

開設後、1万以上の人が訪問している。更に多くの人々が訪問し、映像を見、話を聞いて欲しいと思う。入館料、500円。

<http://ofunato-tsunami-denshokan.jimdo.com/>

⑦ 津波体験館（気仙沼）

唐桑半島ビジターセンターに併設される「津波体験館」は、昭和 59 年(1984 年)、日本初の津波体験施設として開設された。地域の子供たちの防災訓練の一環として利用されている。従来、明治 29 年(1896 年)の明治三陸地震、昭和 8 年(1933 年)の昭和三陸地震、昭和 35 年(1960 年)のチリ地震津波の映像を展示してきたが、平成 23 年(2011 年)の東日本大震災の発生を受け、映像をリニューアルした。大画面での迫力ある映像や時折発生する震度 3 の揺れで、地震や津波を体感できる。また、被災者のインタビューも聞くことができる。

別室では、「3.11 未来への記録」と題した震災の記録映像を、奥行きのある（飛び出してこない）3D 映像で見ることできる。

ビジターセンターには震災の資料展示がある。

交通の便があまりよくないが、是非、見ておきたい場所である。近くに、御崎（おさき）神社、高村光太郎文学碑がある。



高村光太郎は、昭和 6 年(1931 年)8 月、ここ三陸を旅し、唐桑半島を北上する船中での感動を歌に託したと言われている。

「黒潮は親潮をうつ親潮はさ霧をたてゝ船にせまれり」



ビジターセンター全景

（センターから借用）



御崎神社

入場料、ビジターセンターは無料。体験館は、大人、380 円。

<http://www.karakuwa.com/visiter/>

全行程及び
周辺情報

平成 27 年(2015 年)4 月 24 日

- ・東北新幹線にて盛岡へ移動、盛岡からレンタカーを利用し、盛岡～（岩泉・龍泉洞見学）～田老漁港へ移動
- ・田老漁港 スーパー堤防見学とたろう観光ホテル社長が撮られた津波の DVD 鑑賞
- ・宮古周辺観光（三王岩及び震災メモリアルパーク中の浜見学）

- ・宮古 浄土ヶ浜旅館泊（津波のため移転していた）
- 4月25日
- ・宮古出発～（宮古周辺観光；浄土ヶ浜及び碁石海岸）～釜石付近のミニ観光；釜石大観音見学
 - ・釜石～大船渡へ移動、途中三陸鉄道南リアス線に乗車（唐丹～盛）
 - ・大船渡 ホテル福富泊（津波のため、来春、移転予定）
 - ・夕食後、大船渡屋台村立ち寄り
- 4月26日
- ・大船渡出発～陸前高田・奇跡の一本松・虹の架け橋等見学
 - ・大船渡津波伝承館訪問（DVD鑑賞）～賀茂神社・八坂神社立ち寄り
 - ・大船渡～気仙沼へ移動し、唐桑半島の津波体験館を見学
 - ・気仙沼～一関へ移動（レンタカー返却）
 - ・一ノ関から東北新幹線にて帰京

[周辺情報]



龍泉洞(岩泉町)

日本三大鍾乳洞のひとつで、洞内に棲むコウモリと共に国の天然記念物に指定されている



浄土ヶ浜園地

浄土ヶ浜は全長 220km に及ぶ三陸復興国立公園の中ほどに位置し、園地の中で、白い小石の浜辺で有名な奥浄土ヶ浜は、宮古市を代表する景勝地である

見学記録作成

石山(①、③、④、「全行程及び周辺情報」)、
三谷



釜石にはイオンタウンがある。平成26年(2014年)3月14日、オープン。平成27年(2015年)4月からは、三陸鉄道釜石駅のネーミングライツを持っている。今回巡った地域では、イオンを多く見た。復興支援だそうだ